

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年10月20日(火)

《もし、残った時間が一週間だけになったら・・・》

今日の福音(ルカ 12・35 38)も皆様がよく知っている内容だと思います。

さあ、今日は少し深刻に考えてみましょう。もし、一週間以内に死ぬことになったらどうでしょうか。残っている時間が、たった一週間だけになったら、どのような気持ちになるのでしょうか。考えたこともないし、考えたくもないでしょう。そして、本当にそのようになるかもしれないと思いつつ、自分にはそんなことはない、という気持ちで毎日を生きていますよね。

しかしイエス様は、今日の福音でおっしゃっていますね。「私たちは、いつも目を覚ました状態で待たなければならない。」と。もし明日呼びかけられても、自信を持って、「ある程度は準備をしてきました。」と言えるような信仰の生活、信者の態度になっていなければなりません。そうでなければ、私たちは恐れを感じます。私も同じです。「人間だから罪を犯してしまうのは仕方ない。罪を犯してもいつかまじめに反省して悔い改め、赦しを求めれば、イエス様は今までどおり赦してくださるのだらう。」と思って過ごしてしまっています。そして、その時その時を何となく忘れて過ぎてしまっている場合が、私にも結構あります。たぶん皆様も同じではないでしょうか。

もし一週間しか残っていないとなれば、急いでしなければならぬことが、たくさん思い出されると思います。皆様ならば、何を一番したいでしょうか。「どうすれば、残っている一週間で天国に入れるか。」ということではないでしょうか。きっとそう思うでしょう。「どうすればこの罪が赦されて、天国に入れるだろうか。」という気持ちで多分頑張られると思います。

皆様、そうですね。ですから、私たちには、本当に健康な緊張感が必要なのです。散っていく落ち葉を見ても、沈んでいく夕日を見ても、重そうに頭を下げている稲の穂を見ても、私たちはそのサインを読めなければなりません。そして、「いつか自分にもそういう時が来るけれど、その時のために、何を準備しているだろうか。」と意識しなければなりません。もし、一日24時間のうち1時間でも、いいえ10分でも、そのような意識が持てれば、私たちは素晴らしい生き方が出来ると思います。それができないから、私たちは、いつもいらぬことに全ての力を使ってしまうのです。

皆様、今日の福音は、ただ通り過ぎてしまう御言葉ではありません。もし自分自身ならばどうでしょうか。本当によく見られる僕になりたいのではないのでしょうか。それならばどうすればよいか、毎日、毎時間、考えて行動しようとするのが、まじめな信仰の生活ではないかと、今日もう一度あらためて考えてみました。

皆様も私もそのように生きましょう。お願いします。

ありがとうございました。